

令和5年度 第3回 海老名市環境審議会 会議録

日時等	令和5年10月3日（火）13時30分～		
案件	<ul style="list-style-type: none"> ・ [報告事項]海老名環境マネジメントシステムにおける外部環境評価の実施結果について ・ [報告事項]事業系一般廃棄物処理手数料の条例改正について 		
出席委員	氏家委員、村山委員、井上委員、大橋委員、太田委員 里村委員、清水委員、永田委員、藤田委員、堀委員 森島委員、山谷委員 計12名		
公開の可否	公開	傍聴者数	0名
幹事	金指経済環境部長 吉沢経済環境部次長 小野寺環境政策課長		
事務局・説明者等	環境政策課：杉浦係長、寺本係長、栗野主事補 岡村主事（事務局）		
結果	[諮問事項] 及び [答申事項] なし		

1 開会 (進行：環境政策課長)

2 市長あいさつ

3 会長あいさつ

4 議事 (海老名市環境審議会条例第7条第1項に基づき会長が議長となる。)
・傍聴希望者：0名

(1) [報告事項] 海老名環境マネジメントシステムにおける
外部環境評価の実施結果について〈資料1〉

委員 A： 地球温暖化、温室効果ガスの削減、これは非常に重要な課題である。公共施設の改修や設備の更新時期に合わせて、最新設備に替える、太陽光パネルの設置をする等、計画的に行っていただきたい。

施設のエネルギーの性質、排出量から、削減量を計算できるので、長期的な計画を立て、それを拝見したい。

目標自体を見直した方が良い。他市の例だが、道路照明灯・防犯灯のLED化をしている自治体が多い。電気料も半分ほどになり、交換頻度も10年以上と伸びる。福岡市では、道路照明灯の維持管理を企業と市、協働で行う制度がある。企業の宣伝にもなるので非常に良い制度だと思う。道路照明灯や防犯灯は市民にとって身近なもので、目につきやすい。海老名市はゼロカーボンシティ宣言をしているので、ぜひ積極的に取り組んで欲しい。

大都市しか出来ないかもしれないが、ESCO等の民間資金の活用も今後検討していただきたい。

企業の照明等のLED化に対して補助金を出す等、計画の見直しも含めて検討していただきたい。

委員 B： 蛍光灯からLED化の進捗状況を知りたい。

11月のイベントで、生ごみ処理機を実際に動かしているところを見てもらってはどうか。前回の審議会で動画の作成はどうかという話が出たが、イベントで動画を流す等、色々チャレンジしていただきたい。

クリーン作戦について、参加して気付いたことは、自動販売機横にあるごみ箱が溢れている状況。市の職員が外に

出る際に、自動販売機のごみ箱に目を向けてもらい、業者へ指導する等の仕組みが出来れば、海老名市全体のクリーンイメージが上がると思う。

環境政策課長： LED化については、外部委員ヒアリングの際に担当課が来て説明があった。庁舎のLED化については、順次進めており、年度により各フロアの工事を行っている。現在は3階まで完了している。

生ごみ処理機については、過去市民まつりに長く出展してきたが、今回はSDGsの関係を出展する予定である。イベントで実際に目にさせていただくことは大事な機会なので、検討していく。

自動販売機横のごみ箱等、市内で目についた所を細かく指導していくことも非常に重要であると考え。市の職員の意識向上にも繋がるので、貴重なご意見として賜る。

経済環境部長： 今後の提案としては、街路灯、公園の照明等をLED化出来ないか、現在話を進めている所である。

今までSDGsについては、庁内での枠組みを進めてきたが、今年度から民間業者の皆さまからお話をいただき、懇話会を発起した。結果、16の業者が参加をいただき、それぞれ皆様のご提案で専門部会を作ることができた。その中の一つに、イベントでSDGsを普及しましょうということで、今回コカ・コーラさんと小田急さんがSDGs関係で、準備を進めている。特にコカ・コーラさんは、缶とゴミの関係がある。

委員からお話があった、マッチしていないという意見については、その通りだと思う。事業系ごみについては、先ほど市長が申し上げたように、事業系ごみが一番ネックになっている。事業系一般廃棄物処理手数料のうち、市が収集・運搬及び処分する場合の処理手数料をここで改正した。家庭系ごみについては、指定収集袋を導入し、有料化になっているが。今までの事業系ごみは、フルコストではなかった。実際には、そこで焼却するだけではなく、この施設を建てるお金もかかる。ごみ処理施設というのは、迷惑施設で周辺整備を行う費用もかかる。それらを今までは、市民が負担をしていたが、それを事業者にも応分な負担をしてもらおう。その費用もフルコストで、今回計算し、

処理手数料の中に入れた。金額的には大きく上がるが、これによって各事業者が、ごみを分別していただき、減量を意識していただく。

今年度、再生可能エネルギーのポテンシャル調査を行っている。市域全体で環境負荷が軽減できるか、どのような施設を導入できるか調査を行っている。海老名市内全体のCO2排出量も計算し、今後それらのデータを参考にしながら、何が適切なのか検討していく。先日、子ども議会にも出ていたが、神奈川県内の公立高校では、電気を再エネの電気に切り替える方法も取っている。ESCOについては、規模の問題もある。市役所庁舎は電気量が多いが、出来るかどうかは、今後研究していく必要がある。

商工課で中小企業復興支援事業として、LED照明や太陽光等の導入に対し補助をしている。いただいたご意見を含め検討していく。

委員：C

対策のところだが、温室効果ガス排出量を減らせる取組というのは、購入電力を減らすことではないかと思う。つまり、清掃施設の稼働日数を安定的に減らしていく。あるいは、発電設備の効率運用する発電量を増やし、東電からの購入量を減らす。これは非常に有効に温室効果ガス削減をさせると思う。

事業系ごみについて、20社ほどに訪問指導を増やした。更に今後も増やすというが、ここにおいて一番重要なことは、どのような指導するかということだと思う。海老名市に先立って、多摩地域のとある市で、手数料の値上げがあった。市職員の話だと、値上げの効果が出ている。これまで焼却していた生ごみの値上げ、市の働きかけもあり、リサイクルに回した。手数料を値上げすることで、資源化の拡大につなげていくことが非常に重要である。

神奈川県に生ごみ処理機の普及率40%の葉山町がある。当初20年くらい前はコンポスターだった。最近はキエーロ等、補助している。町役場にも在庫が置いてあり、町民もそれを見ることが出来る。見た上でこれを導入する際に、1,000円をその場で払って持って帰ることができる。補助を受けて導入した、全世帯に電話でフォローアップもしている。中には、生ごみ処理機を使いこなせない人が必ずいる。その場合に職員が出向きアドバイスをしている。

補助をするだけでなく、相当きめ細かくサポートしている。そこまでやらないと10%の目標は難しいと思う。

温室効果ガス排出量は、本庁舎エネルギーに関わるとあるが、一番問題なのは本庁舎ではない。学校等の出先の機関が重要である。例えば学校では、答案用紙等、全てシュレッターにかける。10年前シュレッター紙は可燃ごみだったが、現在はリサイクル紙となる。ところが小中学校のごみ担当者が、それを理解していない可能性が非常に高い。出先機関や小中学校、市全体で取り組むことが重要である。

先ほどの報告で、外部環境評価における主な意見ですが、資料集の囲み部分、真ん中の目標設定で指摘がある。今後、目標設定の見直しで検討が望まれる。環境評価結果、7ページ循環型社会を形成する施策方針のところ、上位目標として、1人1日あたりのごみ排出量がある。この上位目標を支える個別指標が4つ挙げられているが、一番重要なところが抜けている。個別指標によると、リサイクル率、事業系ごみ排出量、市庁舎のごみ排出量、生ごみ処理機となっているが、これらを取り組んでも、上位目標に必ずしも繋がるとは限らない。重点を置いている、高座へ持ち込む量を減らす点から見ると、個別指標のところ、家庭系ごみ排出量を入れるべき。逆に個別指標から生ごみ処理機を無くす。雑紙の回収率、色々な測り方があるが簡単なのは組成比率。可燃ごみの組成比率を見て、そこから導出する方法もある。今後の課題としては、目標、個別指標の再検証も必要ではと考える。他の分野についても、改めて何が重要か、見直したほうが良い。

委員 A : 目標を見直した方が良い。目標は、毎年事情が変わっていくので、目標の見直しは当然ある。目標は逆に言うと、見直ししていかなければならない。何が重要か柔軟に考えていただきたい。

環境政策課 : 温室効果ガスの高座の運用日数等、一部事務組合になる。市長も申し上げたように、綾瀬市、座間市、海老名市、3市で持っている焼却炉になる。海老名市にありながら、市の物ではないので、答えが難しいところがある。小平市では、まさに手数料が1kg 25円、業者が搬入していると

ころが 30 円になっている。この 2 年後、令和 8 年から 35 円でかなり値上がりとなる。こういったインセンティブが非常に働くところになっている。私どもも訪問指導をする際に、値上がりもするが、どのように減量していくか、リサイクルができるかをお話しさせていただきたい。

葉山町の件は、海老名市でも海老名キエーロを導入する際に、色々教えていただいた。海老名キエーロをもう少し広められるよう努めていく。

経済環境部長： 補足をさせていただく。特に学校のケースは、実際に市内小中学校の先生方のごみの分別は酷いものだった。担当の用務員さんが各学校にいる。用務員さんに指導をし、用務員さんが先生方を指導する。空の弁当箱も全て一緒に捨ててしまうことが起きていた。今はきめ細やかに分別している。

環境政策課： 目標設定の件は、来年度、目標設定の大元である環境基本計画の改定時期となるので、ここで見直しを図っていただけると考えている。

委員 D： カーボンニュートラル等、環境基本計画は人の行動でどのようなことをしていくかが中心となる。確かにこの目標設定というものは、設備を変えていくことを前提にしないと、非常に難しい。人の行動による計画も良いが、例えば施設の建て替えで、断熱が強い素材を使う等、エネルギーを使わない施設にしていくことも大切である。そのような計画とリンクしていかなないと目標達成は難しい。環境基本計画を第 4 次に変えていく、後期目標になる。それであれば、設備の更新計画とリンクして、CO2 の排出量等、何か考えていくことができる。環境だけではなく、設備を検討する際に素材等に拘っていかないと難しい。このような連携が取れば、厳しい数値に目標設定し直すこともできる。達成できなければ、目標を変えて行くことも必要。

(2) [報告事項] 事業系一般廃棄物処理手数料の条例改正について〈資料2〉

(質疑等なし)

9 その他

10 閉会・副会長あいさつ

—— 散 会 ——